

2023 年度事業計画

1. 2023 年度年間主題（案）「重症児（者）と共に歩む人々の健康と生き甲斐を求めて」

開園祭テーマ 「重症児（者）と共に安全・安楽・安心に努める」

2. 2023 年度の事業計画（継続）

①第Ⅰ期（2022 年～2023 年）：BCP 策定期（2024 年 3 月までの策定が義務化）

- ・当センターの基本理念である創立理念の遵守と検証、危機の認識と役割の質的な向上を目指す。
- ・現状ではBCPの主眼は、新型コロナウイルス感染対策と防災（震度5強以上）と考えられる。
 - 1) 大地震に対する防災実施計画（防災設備、避難経路・避難所）。
 - 2) 新型コロナウイルス感染対策を細密に。新変異種「オミクロン株」等の動向を注視。

BCP（事業継続計画）：骨子は「新型コロナウイルス感染対策」と「防災（大地震等）」

※BCP（事業継続計画）の策定は2024年3月までに義務化されている。

①新型コロナウイルス感染対策を細密に。

- ・新変異種「オミクロン株」の動向を注視し、第7波を克服しましょう。

②大地震（震度5強）に対する防災実施計画（防災設備、避難経路・避難所）。

- ・本来の業務継続計画は、久山療育園の立地・特性・地域性～役割と使命を包括し、原則に基づいたマクロの行動指針と認識される。
- ・2023年度はBCP（事業継続計画）の策定が2024年3月までに義務化されていることに鑑み、試行年度と位置付けて、本策定までの修正～確定期間として認識したい。
- ・一般の事業体でも活用されている持続可能な開発目標（SDGs；Sustainable Development Goals）の視点も視野に置きたい。事業の継続は安定した事業運営や収支の均衡・原価意識が重要。

②第Ⅱ期（2024 年～2025 年）：実践期

- ・危機管理からBCPの実践～事業の新展開へ。
- ・事業に関連した立地・特性・地域性の情報収集とBCPの進捗状況の検証。

③第Ⅲ期（2026 年～2027 年）

- ・事業進捗状況の評価と事業の向上を目指す。・新たな将来計画の策定。

3. 財政健全化プロジェクトの役割と重要性

①財政赤字が定着化（2017 年度以降）した要因の分析と把握

- ・「社会福祉充実残額」は重要であるが、公益法人として利潤追求が制限されている中で、「内部留保金」が過剰であったという認識は必ずしも妥当ではない。
- ・第一の要因として施設運営と社会福祉貢献及び地域貢献に配慮しつつ収支均衡を図ってきた理念が支えてきたことと、第二に全国でも例を見ないほどの友の会会員の支援（献金及びボランティア活動）があったことが挙げられる。

②収支均衡を実現した上での将来計画

- ・久山療育園の創立理念や運営基本方針を堅持しつつ、福祉共同体としての発信（ミットレーベンネットワークやボランティア会、諸教会との協働）。
- ・「重症心身障害児者と共に」利用者の必要に応える：2015年度開所した「在宅支援センター」、「重症者ホーム」に続く将来計画の策定。

4. 第44回日本重症心身障害福祉協会西日本施設協議会（2023年）開催担当施設として

会期：2023年11月16日（木）、17日（金） ※万一オンライン形式であれば1日

会場：九州大学医学部百年講堂

テーマ：「重症児（者）支援の目指す方向」～伴走する医療と療育の課題

- 内容：①特別講演Ⅰ 「強度行動障害を伴う重症児（者）」
②特別講演Ⅱ 「重症心身障害施設のBCP（事業継続計画）」
③シンポジウム 「中高年齢化する重症心身障害児（者）の今日的課題」